

図画工作・美術科 内容系統配列一覧表

		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第7学年	第8・9学年	
目標		造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方について考え、豊かに発想や構想をしたり、身の回りにある作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。			造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、主題を生み出し、創造的に発想や構想をしたり、身の回りの美術や美術文化を含む親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。			自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独自の・総合的に考え、主題を生み出し、豊かに構想を練ったり、美術や文化に対する見方や感じ方を深めたりできるようにする。		
		話したいことが伝わるように形や色を選んで表す。	表したいことに合わせて材料を選んで表す。							
		形や色などを基に	形や色などの感じを基に		形や色などの造形的な特徴を基に		造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。			
思考力・判断力・表現力	共通事項(1)イ	我が国や諸外国の美術作品・生活の中の造形					作品のよさや美しさ	鑑賞(絵画・彫刻) ・作品から自分なりの物語や意味などを感じ取る ・自然を観察し、特徴を捉える	鑑賞(絵画・彫刻) ・名画の魅力に迫る ・写真だからできること ・時代や社会と美術	自主としての内面と関わる思考・判断・表現 他者として社会と関わる思考・判断・表現
		絵や立体	A表現(1)イ	・楽しかった思い出・経験から表したい場面を見つけ出す。 ・空想から物語をつくり表す。 ☆発想が広げられない	・観察から特徴を捉えて表す ・心に残る物語の場面を表す ☆経験不足	・観察から創造を広げる ・物語から広げて表す ☆自分のイメージをもてない	感じ取ったことから	(絵画・彫刻) ・身近なものの美しさをスケッチする ・目と手で特徴を捉える ・その人らしさを表す ・光と陰影の効果を捉える	(絵画・彫刻) ・生命を感じる動きやしぐさ ・躍動感を表す ・刻々と変化する風景を捉える	
		造形遊び	A表現(1)ア	身近な自然物 ・小石・木の葉 ・光 ・小枝・木の実 など 身近な人工物 ・空箱・空き缶 ・新聞紙・段ボール ・毛糸・ボタン ・ビニル など	前学年までの身近な自然物 木材(小割・垂木など) 光とかけ 前年度までの身近な人工物 綿・紙袋・クラフト紙・ひも類 ☆経験不足	・前学年までの身近な自然物 ・前学年までの身近な人工物 ベニヤ板・発泡スチロール ・証明器具 ・金属・針金(鉄・銅・アルミニウム) ☆発想が広がらない	考えたことから	(絵画・彫刻) ・身慣れている場所が語りかけるもの ・思い出の景色や場面を表す	(絵画・彫刻) ・書くとき描く ・印象や感情を形や色で表す ・空想の世界を表す	
		工作	A表現(1)イ	簡単な動く仕組みを生かした工作 (紙皿・紙コップ) (ストロー・傘袋) ☆材料をうまくつなげられない	動く仕組みを生かした工作 (ゴム・風の力) (ビー玉転がし) ☆組み合わせがイメージできない	動く仕組みを生かした工作 (アニメーション)(クランク) ☆仕組みがなかなか理解できない	伝達を考えた	(デザイン・工芸) ・楽しく伝える文字のデザイン ・記憶に残るシンボルマーク ・私の気持ちをカードに込めて	(デザイン・工芸) ・情報をわかりやすく伝える ・単純化や強調された形や色 ・ポスターやブックカバーのデザイン	
		自己と向き合う	友だちなどと向き合う		集団や社会と向き合う		使うことを考えた	(デザイン・工芸) ・美しく使いやすいデザイン	(デザイン・工芸) ・使う人の気持ちを考えてデザインする ・材料の特性を生かしてつくる ・暮らしを心地よくするインテリア	
							生活や文化	鑑賞(デザイン・工芸) ・目的に合わせてつくるために必要なこと	鑑賞(デザイン・工芸) ・漫画表現の豊かさ ・行為に合わせてデザインする ・仏像の種類と様式 ・自然とのつながりから生まれた造形 ・デザインで変える現在と未来	
学びに向かう力・人間性		・表現したり鑑賞したりすることが一体になりながら楽しく活動する。		・自分の資質・能力を発揮しながら、友だちと関わり合う。 ・夢や願いをもち、楽しい生活を自らつくり出そうとする。		・自ら周囲と関わり、自分らしい活動を充実する。 ・夢や願いをもち、楽しい生活を自らつくり出そうとする。		・生活の中で美術の表現や鑑賞に親しみ、環境を美しく飾ったり構成したりする ・身の回りの生活を創造的な視点で見つめ、新たな気付きや発見をする	・生活の中で美術の表現や鑑賞に親しんだり、生活環境を美しく飾ったり、構成したりする ・社会に果たす美術の役割を理解するとともに、自然や美術作品や文化遺産に目を向け、よさや美しさなどを積極的に味わう	

図画工作・美術科 内容系統配列一覧表

期	第Ⅰ期				第Ⅱ期			第Ⅲ期	
	多様な造形体験を通して、表すことの楽しさを味わわせ、見方・感じ方を広げる。				習得した知識・技能を活用し、自らの考えを追究し、見方・感じ方を深める。			自己や他者、社会を見つめ、見方・感じ方・表し方を総合的に深めていく。	
目標	対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して分かるとともに、手や体全体を十分に働かせ、材料や用具を使い、表し方などを工夫して創造的につくったり表したりすることができるようにする。				対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して分かるとともに、手や体全体を十分に働かせ、材料や用具を使い、表し方などを工夫して創造的につくったり表したりすることができるようにする。			対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。	
学年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第7学年	第8学年	第9学年
生きて働く知識・技能の習得	『身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れること』		『材料や用具を適切に扱うこと』		『活動に応じて材料や用具を活用すること』		『自分の意図する形や色彩などに表すことができるよう、材料や用具の特性を理解すること』		『材料や用具のみならず、それを活用する表現方法の特性からも制作の順序などを総合的に考え、見直しをもって表す』
	<ul style="list-style-type: none"> はさみで切る カッターナイフで切る カッターナイフで切り抜く 段ボールカッターで切る ☆カッターナイフの扱い方 		<ul style="list-style-type: none"> 前学年までの技法 のこぎりで木材を切る（直線） 手動の糸ノコで切る（曲線） きりで穴あけ ・ハンドドリルで穴あけ 小刀でけずる ・彫刻刀で彫る 金づち、げんのうで釘を打つ ☆のこぎりの刃の使い分け ☆彫刻刀の持ち方 		<ul style="list-style-type: none"> 前学年までの技法 電動糸ノコで木材を切る（曲線） ペンチ、ラジオペンチで曲げる切る ドライバーで締め付ける ☆針のセッティングができない。 		<ul style="list-style-type: none"> （絵画・彫刻・デザイン・工芸） 水彩絵の具 ポスターカラー 墨 ・色鉛筆 ・ペン 鉛筆 ・写真 パステル ・色紙 粘土 ・木 ・石 紙 ・段ボール ・布 針金 ・金属 プラスチック ・廃品 		<ul style="list-style-type: none"> （絵画・彫刻・デザイン・工芸） 自分の表現を具現化するために主体的に材料や用具を関連付けたり、総合的に扱ったりする。
	並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくること		前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくること		前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくること				
A 表現 (2) ア	<ul style="list-style-type: none"> 〈接合・接着〉 のり・木工用接着剤 ・結ぶ テープ類 ・ステープル ☆接着剤の選択（使用する材料に適した接着剤が選択できない。） 		<ul style="list-style-type: none"> 〈接合・接着〉 釘 ☆垂直に打てない。 		<ul style="list-style-type: none"> （接合・接着） 蝶番 ・編む 				
A 表現 (2) イ	身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れること 手や体全体の感覚を働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表すこと		材料や用具を適切に扱うこと 前学年までの材料や用具について経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと		材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思いつくこと 前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと				
共通事項 (1) ア	自分の感覚や行為を通して、形や色などに気づくこと		自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じ方が分かること		自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること				・形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解する。
	身近にある形・色 ・見立て		模様・左右対称・形の繰り返し・リズム・位置・大小		・奥行 ・遠近感 ・動きのある並び方 ・色の感じ ・構成 ☆構図のとり方				